

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	座間市立児童発達支援センター サニーキッズ (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 21日		2025年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	2025年 2月 7日		2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 11日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	
1	発達に即した日常生活動作の獲得や集団での過ごしについて、子どもたちのペースで安心して積み重ねていけるよう、利用児の発達年齢やタイプを考慮したクラス編成を行い、子どもたちが取り組みやすく、過ごしやすい環境調整のもとで支援提供をしています。	クラスの傾向に合わせた取り組みや人員配置の目安を可視化し、職員間で共有しています。 基本的な取り組みの枠組みを毎年見直し、職員で共有することで、事業所内で方針や取り組みに差異が生じないように努めています。	
2	子どもたちの変化に応じて必要な環境選択ができるよう、子どもの状況の変化を保護者や関係機関と共有し、所属クラスや登園日数の変更など、柔軟な対応をしています。	子どもの様子について保護者・併行通園先(幼稚園/保育園等)、他関係機関と共有し、状況にあったクラスへの移動や登園日数の変更などを行っています。特に、併行先とは集団場面での過ごしについて共有を行い、それぞれの役割を確認しながら連携を図るよう努めています。	
3	保護者がお子さんの状態等について緩やかに理解を深めながら、成長を見守っていけるよう観察や相談・情報提供の機会を提供し、複数職種/職員で支援を行っています。	定期的に親子通園(ミラー観察)機会を設け、その時々のお子さんの様子や変化について、共有をしています。ご家庭等での様子や過ごしへの困り感などを伺い、保護者が無理なくできる対応方法とともに考えていきます。必要に応じて専門職や相談員、外部資源などにつなげていきます。 集団場面での情報提供機会を設け、保護者同士の顔の見える関係づくりに努めています。	

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物の構造上、子どもたちの安全面・過ごしやすさ・活動の幅広さ・プライバシーの保護など改善を要する点があります。	目的の異なる施設をリニューアルして使用しているため、建物の構造が子どもの過ごしを念頭に置いていないことが要因となっています。	安全面：建物内の安全点検を徹底し、子どもたちの接触や転落、飛び出し等のリスクを想定、対策を講じていきます。 過ごしやすさ：生活動線を考慮した部屋の利用や、物の配置、子どもたちにとってわかりやすい手掛かりなど工夫をしていきます。 活動の幅広さ：スペースごとの用途を固定化せず、季節や取り組みによって変更していきます。子どもたちの興味関心・意欲が高まるよう備品や教材を工夫していきます。 プライバシーの保護：トイレの男女別・脱衣スペースの確保など環境整備に努めます。
2	施設外での活動、地域交流の機会が十分ではなく改善する必要があります。	周辺の道路状況などから施設外に出る難しさがあります。また、事業所の役割や取り組みを地域にお知らせする機会が十分に持てていないことが要因となっています。	送迎車両を利用して、市内の公園などへ外出機会を設けていきます。 近隣保育園との交流など、子どもたちの活動の場の拡大に向け努めていきます。 利用児のプライバシーに十分配慮しながら、地域の人に事業所の役割を知っていただける取り組みを模索していきます。
3	保護者・兄弟等、ご家庭が交流する機会が十分ではない状況です。	親子分離通園を基本としており、一斉に集まる・日常の中で顔を合わせる機会が少ないことが要因として考えられます。また、保護者負担を考慮し父母会等は実施していません。	行事やお話タイムなどの情報提供場面を通じて、保護者が顔を合わせる機会を計画的に設けていきます。また保護者主体での交流など、意向を確認しながら後方支援について模索していきます。